

背景

自閉症スペクトラム障害(ASD)は社会性やコミュニケーション等の特徴が知られているが、一方で認知機能面においても特徴を示すことが知られている。成人において就労は大きな課題であるが、注意機能は職業関連活動の遂行に大いに影響する。¹⁾

方法

対象: 就労移行支援サービスを受給している、ASDと診断された成人(注意欠陥多動性障害の重複診断のある者は除外)
評価: 標準注意機能検査(Clinical Assessment of Attention: 以下CAT). 全般性の注意機能検査
分析: 得られた結果を、同じ年代の標準値のデータと比較

【対象者】

対象者数	年齢	言語性IQ	動作性IQ	全IQ
11人	26.4歳	97.4	79.9	88.5

※年齢～全IQまでは平均を示す ※IQはWAIS-IIIの結果を示す

【CAT概要】

下位検査	検査内容
数唱(スパン)	検査者が読み上げた数系列を同じ順で(順唱)または逆から(逆唱)復唱する。
視覚性スパン	検査図版に描かれた9つの正方形を検査者がさし示した順に/逆の順で、指し示す。
視覚性抹消課題	干渉刺激の並びの中に含まれたターゲット刺激を速く見落としのしないようにチェックする。
聴覚性検出課題	読み上げられる5種類の語音刺激中、ターゲット語音に対して反応する。
SDMT	9つの記号と数字が記載された対応表をもとに、記号に対応する数字を記入する。
記憶更新課題	検査者が読み上げる数系列のうち、末尾3つ(3スパン)または末尾4つ(4スパン)を答える。
PASAT	連続的に聴覚呈示される1桁の数字について、前後の数字を順次足していく。数字の呈示間隔が2秒と1秒の条件からなる。
上中下検査	上段、中断、下段に配置された上、中、下の漢字の位置を口頭で述べる。
CPT: SRT課題	数字の⑦のみがランダムな間隔で呈示される。呈示されるたびになるべく早く反応する。
CPT: X課題	①から⑨までの数字がランダムに呈示される。⑦が呈示されたらなるべく早く反応する。
CPT: AX課題	①から⑨までの数字がランダムに呈示される。③の直後の⑦にのみ、なるべく早く反応する。

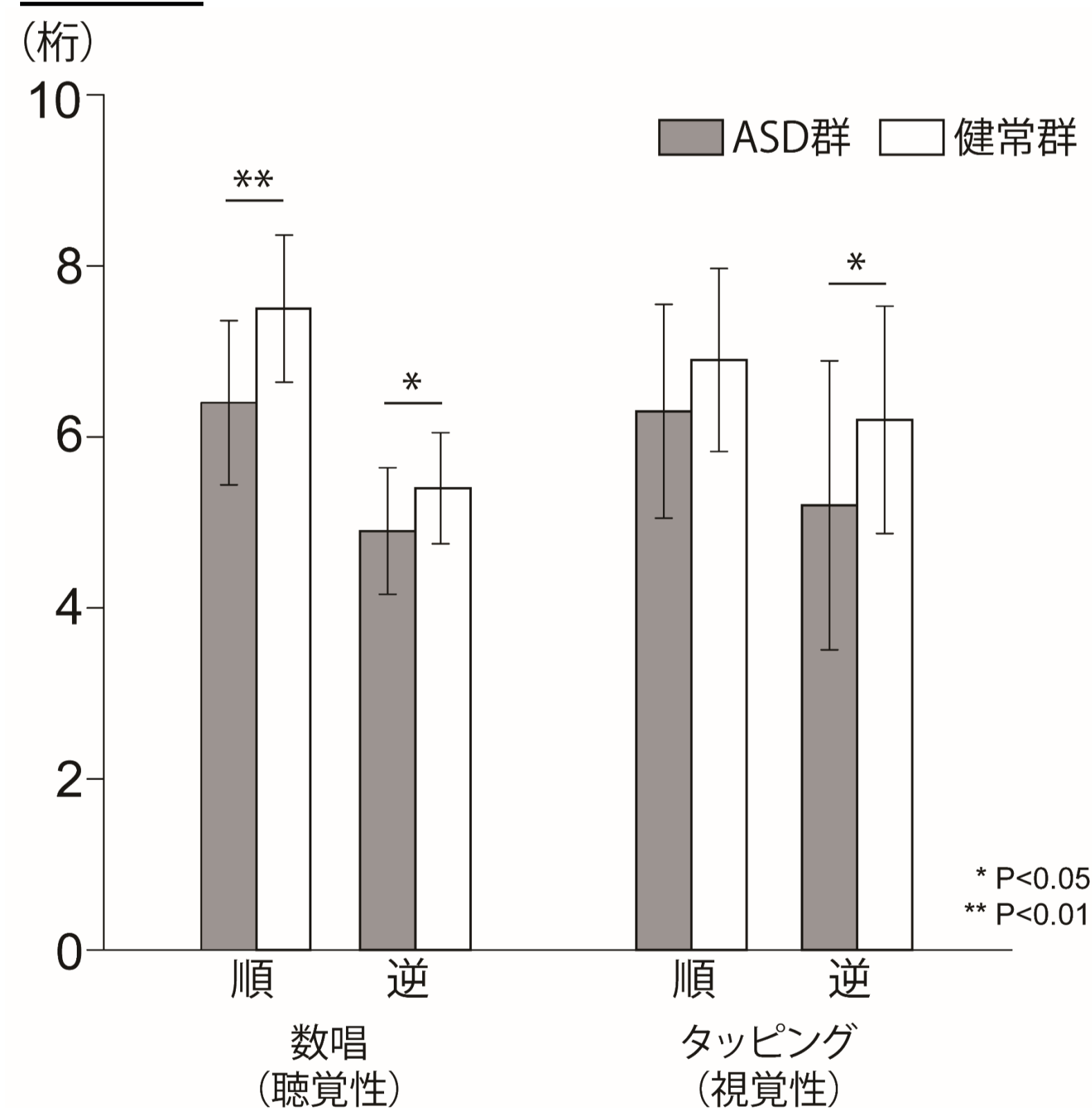
*1)Symbol Digit Modalities Test *2)Paced Auditory Serial Addition Test *3)Continuous Performance Test *4)Simple Reaction Time
出典: CAT標準注意検査法・CAS標準意欲評価法。日本高次脳機能障害学会編, 新興医学出版社

【注意の種類】

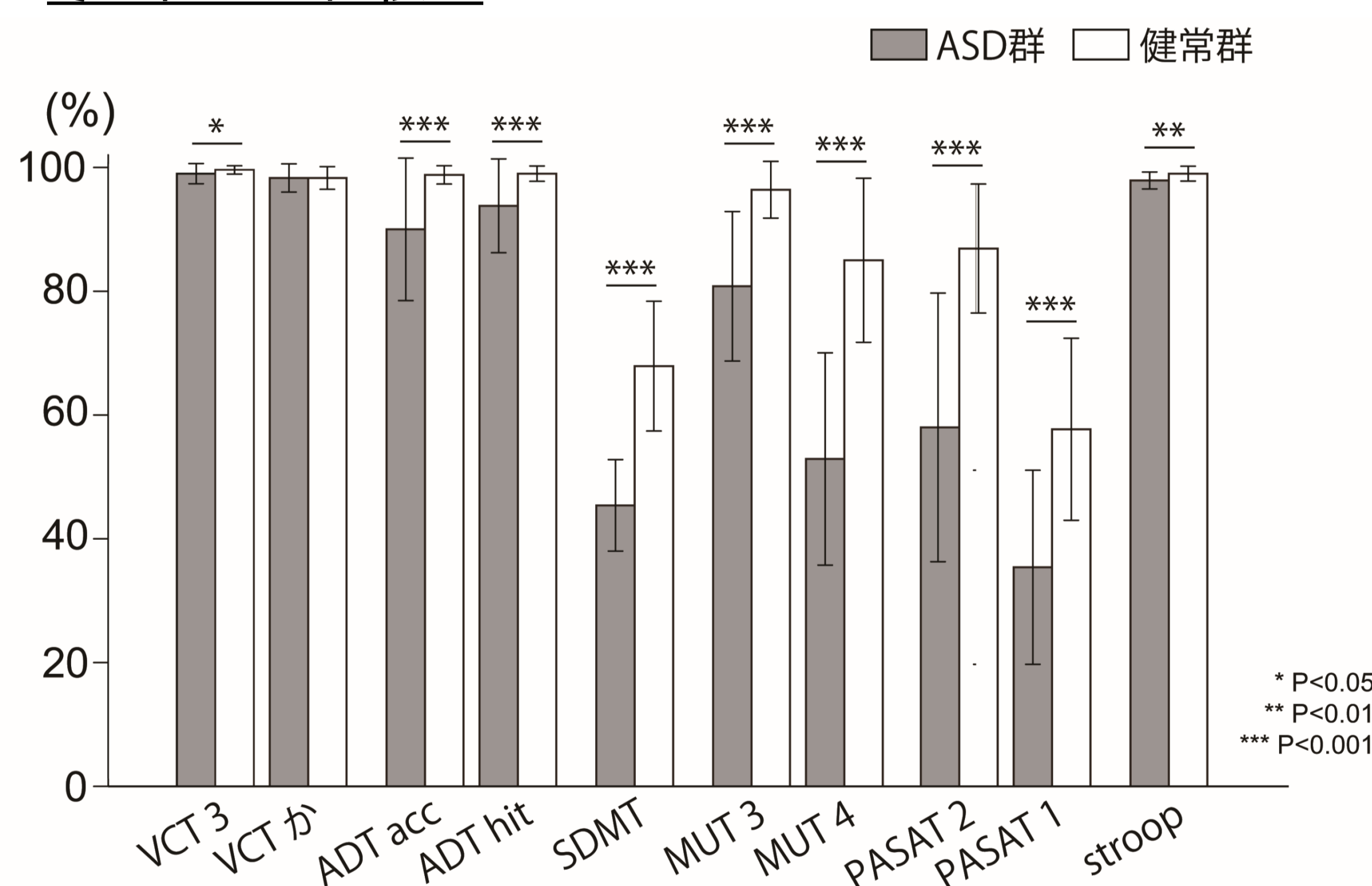
作動性記憶
スパン、記憶更新課題、PASAT
選択性注意
末梢課題、検出課題
分配性注意・注意の転換
SDMT、記憶更新課題、PASAT、上中下検査
葛藤条件の監視機能
上中下検査
持続性注意
CPT

結果と考察

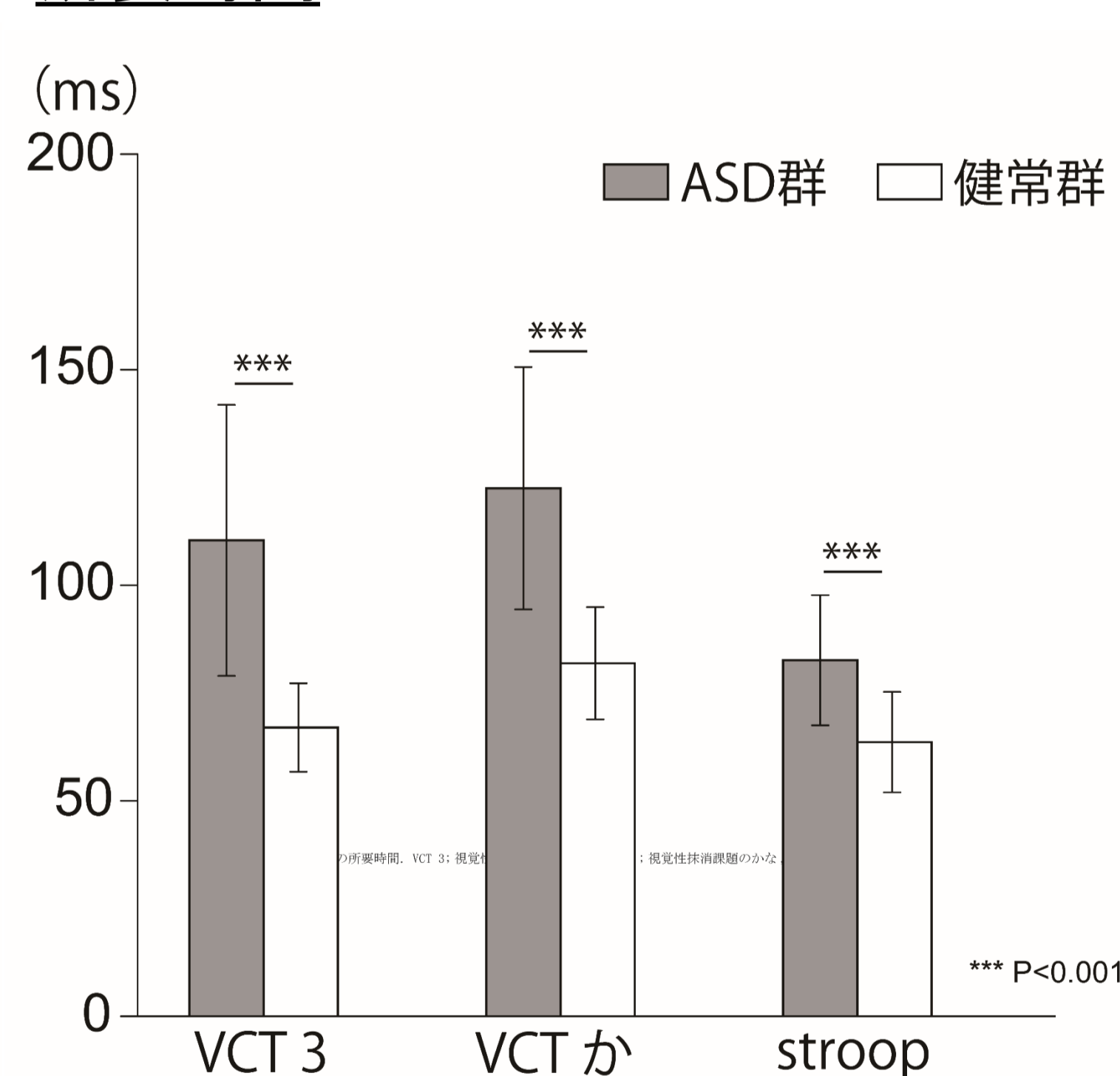
スパン



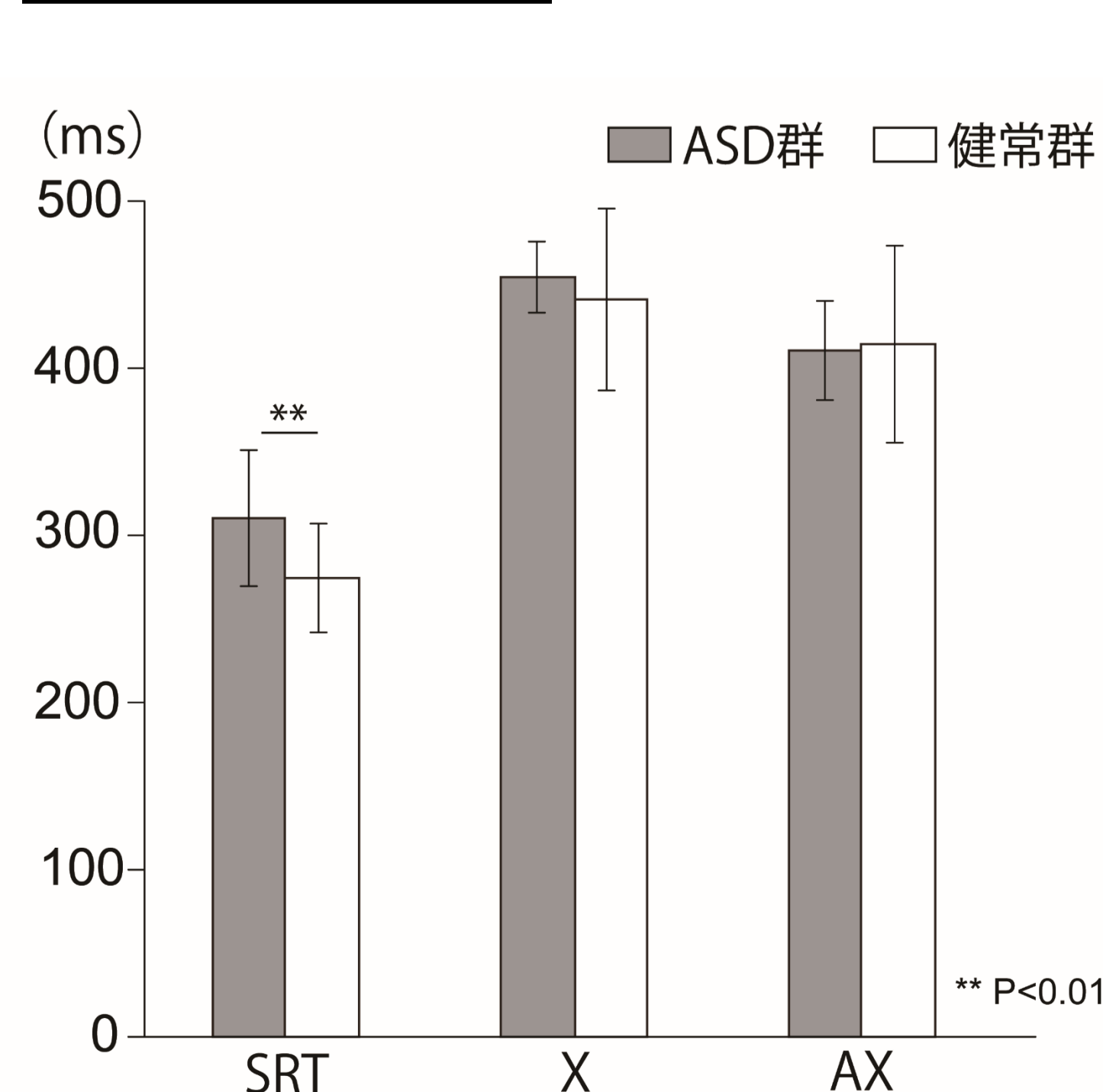
その他の下位検査



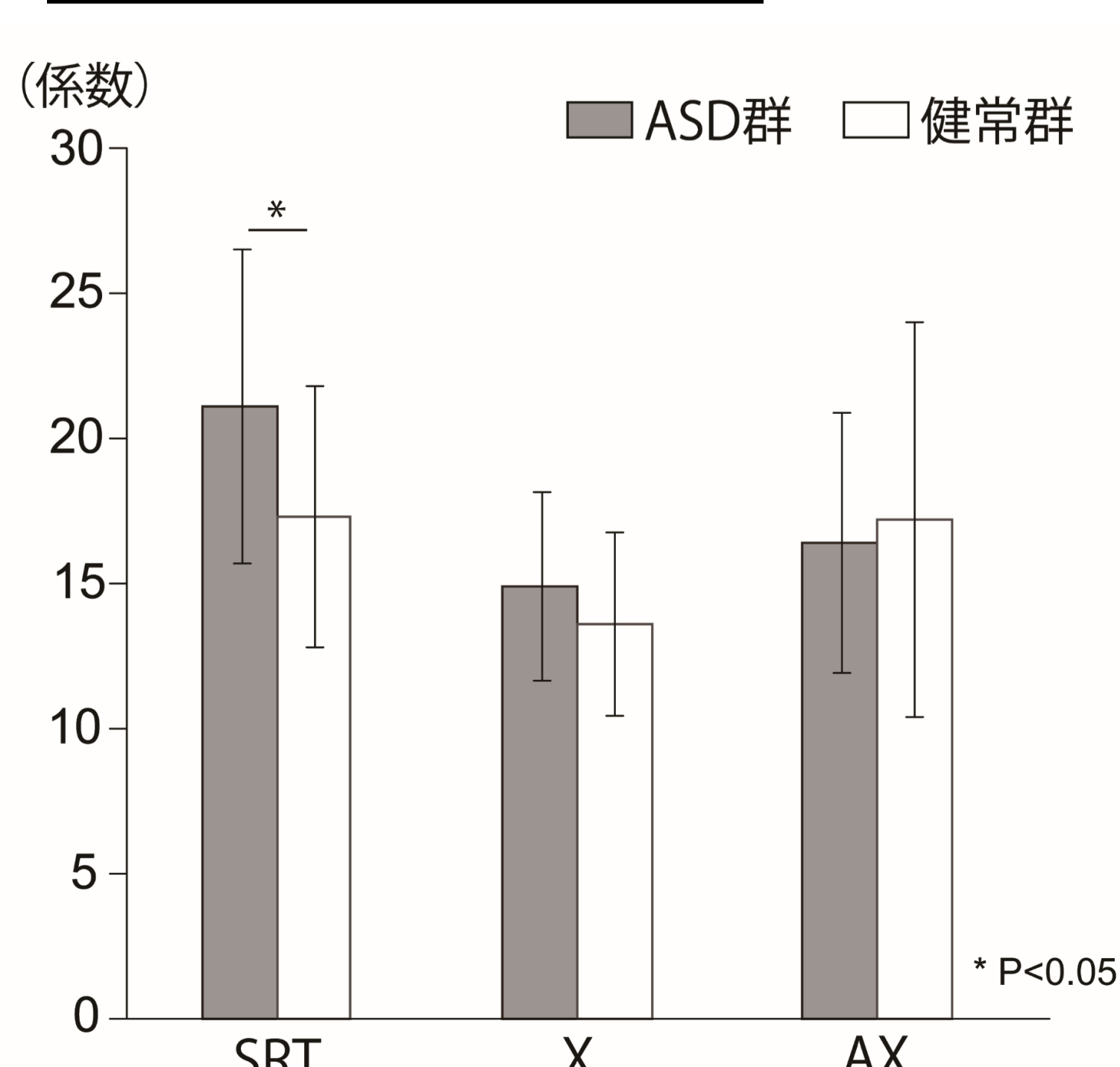
所要時間



CPT(反応時間)



CPTの結果(変動係数)



VCT: 視覚性抹消課題(“3”, “か”はそれぞれターゲット)
ADT: 聴覚性検出課題(acc=正答率, hit=命中率)
MUT: 記憶更新課題(3, 4はそれぞれ桁数)
Stroop: 上中下課題

【評価結果より】

- ・多くの項目においてASDで低下
- ・先行研究(実験研究)との一致
- ・動作性IQの影響

→今後、就労に関する評価結果との関連を分析